

## の観 JICA国際協力援助事業への参加 私業 職業 平泉 元(鳳14期)

私は大館鳳鳴高等学校・第14期(昭和37)の卒業です。この4月で満65歳になります。この度、東京鳳鳴会より何か一報をとの依頼を受けました、あれこれ迷いましたが、これまでの自分の軌跡をなぞってみました。

私の生涯の仕事はと問われれば「職業訓練指導の業務」と言えます。学卒後就職はできたが専攻内容が仕事とはミスマッチとなり、新たな専門を学ぶ羽目になり、まさに第一歩からつまづきました。現在なら即、転職となるのでしょうか、当時再就職は難しく与えられた仕事に邁進し、ジッと堪えるしか手はなかったのです。だが、仕事内容が次々と変わらねばならなかったことが、「人間万事塞翁が馬」のごとき、自分のキャリアを積み結果とな



ヨルダンの職業訓練施設での配管実習の様子

り、自然に知識の幅が広がったと思います。役に立たない経験などはありません。得たことを年を重ねる毎に実感してきました。初勤務の職業訓練センターで7年間、高卒・一般企業の教育訓練指導を担当しその後千葉センターへ移ったのが転機となり、長年希望していた海外研修生(各国の指導教員・50カ国以上に及ぶ)を教えることになったのです。当初コミュニケーションの基本となる言葉の問題が生じ短期間での勉強強を余儀なくされました。幸いなんとか意思疎通ができるようになりましたが次に生活指導の面での難関を抱えました。教育指導は人との関わりが第一です、技術指導だけでは対応が十分とは言えず、彼らとの関わりを深くすることを模索しました。自宅に招くことや自宅に近い川に誘い、彼らには初めてのルアー釣りで思いもかけない1000匹超のフッコ(鱈の子)を釣り上げ、その戦果に誰もが興奮し、それを隣近所にお裾分けするという日本の生活体験をしたこともありました。千葉センターにはイスラム圏からの研修生が多く彼らは何時も肉を食べたい願望があるのですが、戒律で豚肉はダメ、他の肉もイスラムの折りの後に処理する肉以外は決して食しない厳格な戒律を守っています。そこで彼らに久々の肉を提供、彼ら自らカレーなどを作り、食してもらうことにしました。大館に帰郷し妻の実家から生きた鶏を4羽も



パソコンを自習する女性達

らい受け、車のトランクに押し込み10時間で千葉へ。1週間後、イスラム教祭日のお祈りの後、イスラムの手法に従い鶏を処理する宴会を催すなど、できる限りの交流を心がけました。このようにして彼らとの交流は良くなり、数名とは25年後の現在も交流が続いて居ります。その後、私はJICA(国際協力事業団)より海外派遣業務を要請され、最初のマレーシア労働省(訓練センター)の設立と訓練管理指導業務へ、次にセネガル教育省(センター)の運営と短大設立業務へ、次にチュニジア労働省(工業技術短大設立と運営指導)へ、次にヨルダ(労働省職業訓練施設の再構築指導)へなどで通算12年間の長期勤務となりました。他に短期滞在も含めると訪問した国は20カ国に及び、国内での協力も入れると海外技術協力は28年程になります。私の体験した長期滞在国は、全て

がイスラムの国々使用言語は英語、フランス語、アラブ語とばらばら)というのも特殊な例です。また赴任の度に立ち寄りイスラム国UAEドバイの繁栄やその違いなどを機会があればお話できればと思っています。これらの業務を通して言えるのは、専門技術の移転よりも意思の疎通に欠かせない一般日常生活の習得が挙げられます。そこで今後は、言葉の習得にはとの間に「恥を諸共とせず、習うよりは慣れよ」と話しており、海外からの研修生は3~5ヶ国語を話すのも珍しくありません、正に彼らは日常の生活の中で言葉を使用し、個々の努力をすることで身に付けているのです。私は赴任に際し、JICA本部での15日間の英会話研修だけでマレーシアに渡りましたので不安の毎日でした。そしてその解決法としては私の机をカウンターパート(担当教師)の職員室に移動してしまっただけにありません。朝の挨拶で私か彼かどちらか先に発した挨拶言葉(日本語か英語)を強制的にお互いに一日中使用することとしたのです、結果として、かれの日本語は群を抜いて正確な日本語となり、私の英語もまあまあ通じるようになり、その後の業務推進に大きな支えとなったことは確かです。

さて、現在の私はJICAの再度の依頼でJICA専門家として中東のヨルダン国に派遣され、労働省の職業訓練事業本部一員として勤務しております。ヨルダンの首都アンマンからは約130キロでイラクへ、50キロでパレスチナ、イスラエルへ行くことができます。新聞

東京ビジネスサービス(株)  
顧問 望月 久  
(鳳鳴15期)  
TEL 03-3334-4361  
FAX 03-3334-7201  
E-mail: h-mochizuki@tbs-net.co.jp



日本と  
資源保有各国の明日の  
資源系リーダー達を  
北鹿「小坂キャンパス」で  
世界と結ぶ

財団法人  
国際資源大学校  
専務理事  
横井 弘明 (鳳14期)

東京鳳鳴会の更なる躍進を  
お祈りいたします

弁護士 村本 政彦 (鳳鳴24期)

村本法律事務所

東京都新宿区左門町13-1 四谷弁護士ビル502

電話 03-3225-0078 FAX 03-3225-0594

(地下鉄四谷三丁目駅下車1分・四谷警察署前)